



清水比庵《海へ来て》1950-60年代

SHIMIZU HIRAN

2025年10月4日(土) ~ 11月30日(日)

開館時間 午前9時30分~午後5時00分(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日が休館となります)

入館料 一般730(650)円、大学生510(460)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体割引料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料(ミライロID提示可)

※11月3日[月・祝]「文化の日」は無料開館

※第3日曜日「家庭の日」(10月19日、11月16日)は、大学生・専門学校生以下無料

※日光市民は一般300円、大学生200円、高校生以下無料

主催 公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館 / 日光市 / 日光市教育委員会

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3
TEL 0288-50-1200
ホームページ <http://www.khmoan.jp>



没後50年
清水比庵とその交流

清水比庵しみずひあな（一八八三—一九七五）は岡山県上房郡高梁町たか（現高梁市）に生まれ、京都帝国大学（現京都大学）法学部卒業後、司法官や銀行員の職を経て大正十三（一九二四）年、古河電気工業に入社、その四年後には日光に赴任しました。昭和五（一九三〇）年から日光町長として九年間三期にわたり観光課の設置やスケートリンクの新設、温泉源の開発など今日までの観光行政の基礎を築き上げ、昭和三三（一九五八）年に旧日光市において小杉放菴（一八八一—一九六四）らと共に初の名誉市民に推挙されます。

比庵が本格的に歌人として歩み出したのも日光の地からであり、昭和三二（一九二八）年から二荒短歌会を主宰、その後も短歌雑誌「二荒」を刊行し、同雑誌の表紙画を放菴に依頼しました。多くの画家らと交流を持った比庵ですが、特に弟の三深と設立した「野水会のすいかい」で賛助を得た日本画家、川合玉堂（一八七三—一九五七）とは互いに「先生と呼び合いながら交友を深めていきました。歌・書・画を独学ながら、その非凡な才能を発揮し年齢を重ねるごとに独自の芸境を深め、昭和四一（一九六六）年の八四歳の時には宮中歌会始の召人に出され、「今良寛」と呼ばれるなど、全国に多くのファンが生まれました。

本展では当館開館時より寄贈、寄託いただいた比庵の書や絵画作品二六点に加え拓本と資料、放菴の作品を展示し、玉堂との交流についてもご紹介いたします。没後五〇年を迎えるにあたり、「毎日佳境」を標語に歌・書・画の三芸と向き合った清水比庵の軌跡を辿っていきます。

《毎日佳境》一九六二年



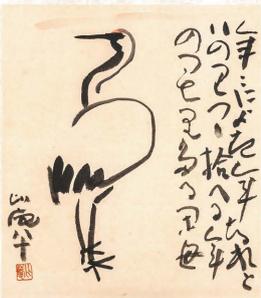
《貼交屏風》一九三〇年代



《南瓜》一九四〇年代



《年々に》一九六二年



《老松》一九六二年



《長春》一九七二年



雑誌「二荒」

「下野短歌」(装画・小杉放菴)



小杉放菴《山翁奉仕》一九四四年



※掲載作品はいずれも小杉放菴記念日光美術館所蔵

没後50年 清水比庵とその交流

関連イベント

当館学芸員による ギャラリートーク

10月5日(日)、10月26日(日)、
11月23日(日)
各時間:午前11時00分～11時30分
参加費:入館料のみ
参加方法:事前申込不要

ワークショップ「絵手紙を描く」

「絵手紙の元祖」と呼ばれている清水比庵に関連して、お手軽に絵手紙制作を楽しんでいただくプログラムです。

講師:やない ふみえ(童画家) 日時:10月11日(土)午前10時00分～12時00分
対象:中学生以上 定員:10組(先着順)
会場:美術館展示室、体験実習室 参加費:730円(観覧料を含める)
参加方法:事前予約制。9月27日(土)より美術館へ電話にて受付開始。

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館



〒321-1431 栃木県日光市山内 2388-3
TEL 0288-50-1200



【会場・交通案内】

電車 東武日光駅またはJR日光駅から東武バス「世界遺産めぐりバス」もしくは西参道行、清滝行、やしおの湯行、中禅寺温泉行、湯元温泉行バス5分。「神橋」停留所より徒歩3分。

車 日光宇都宮道路・日光インターから約2km

駐車場 併設の市営駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、2時間まで無料となります。とくに紅葉の時期、美術館周辺はたいへん混み合う場合がございますので、時間には余裕をもってお越しください。